

平成 24 年北栄町議会議員研修報告書

日 時 平成 24 年 7 月 18 日 (水) ~ 20 日 (金)
調査地 滋賀県湖南市 ・ 長野県飯田市
北栄町議会議員 山下昭夫

調査内容

(内容)	(場所)
(1) 障がい者雇用の促進について	カルビー・イートーク (株)
(2) 発達支援システムについて	湖南市健康福祉部 社会福祉課
(3) グリーンツーリズムの取り組みについて	南信州観光公社
(4) メガソーラー施設見学	メガソーラーいいだ
(5) まちづくりについて	(株) 飯田まちづくりカンパニー

調査結果又は概要

(1) 障がい者雇用の促進について

設立 2007 年 11 月 1 日

資本金 1 億円

従業員 24 名 (内) 11 名 知的障害者雇用
3 名 身体障害者雇用
10 名 健常者雇用

作業内容

じゃかりこ ・ たこ焼き ・ USJ (エンバーサルジャパン) ・ 七味家

業務のスキル評価

1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 教える

業務日誌

- ・ 交換機能、同志連携
- ・ 環境が変わった時にも支援
- ・ 支援者を支援する

(2) 発達支援システムについて

甲賀地域障害児・者サービス調査会議の機能でもある個別調査会議とも連動し、就労や家庭生活を支援しています。

○ 発達支援室構成メンバー

室長 (教頭職) ・ 1 人 保健師 ・ 1 人 発達相談員 ・ 1 人
発達相談員 (嘱託) 2 人 保育士 (嘱託) 1 人 保育士 (臨時) 3 人

○ システムの活用について

1. 発達支援システムの活用状況

- ・ 乳幼児健診とその後のフォロー

- ・ 療育による早期発達支援
- ・ 保育園、幼稚園における発達支援
- ・ 小学校への引き継ぎと小学校における特別支援教育
- ・ 中学校への引き継ぎと中学校における特別支援教育

2. 高等学校等への引き継ぎと高校等支援

3. 大学進学と就労支援

(3) グリーンツーリズム取り組みについて

事業の歩み

- ① 1995（平成7）年より通過型の観光地から滞在型への転換を目指す
教育旅行をターゲットに絞る
関東、関西に3,000通の中学校、高校、教育委員会
- ② 1996（平成8）年に横浜の高校の自然教室
- ③ 1998（平成10）年に最初の農家民宿の受入
- ④ 1998（平成10）年頃から飯田下伊那18市町村全域でこの事業を展開
- ⑤ 2001（平成13）年1月に南信州観光公社設立 飯田市窓口

(4) メガソーラー施設見学

メガソーラーいいだ

太陽光発電システム見学

(5) まちづくりについて

まちづくりカンパニー

飯田市街地の歴史

飯田市の大火

昭和22年 全焼戸数4010戸 消失面積 451,000m

市街地再生への5つの視点

- ① 仕事（オフィス）等の都市型機能
- ② 中心市街地全体が一つの共同体
- ③ 生活者の立場に立った合理的な権利関係の調整
- ④ 生活する人々の利益、つまり商業地、生活地としてのポテンシャルを向上
- ⑤ 市民主導の視点

(6) まとめ

滋賀県湖南市「傷がい者雇用の促進について」「発達支援システムについて」については事例を勉強したという感想しか頭に残っておりません。

北栄町がすぐ取り組み、またいかす方向にあるかとは思われませんでした。

次の長野県飯田市、南信州観光公社「グリーンツーリズムに関する研修」については、場所、東京・横浜・千葉といった4～5時間程度でこれる交通。又南信州という自然がもたらす背景があると感じました。

又成功したのは担当者が旅行業務に携わった経験があるという面が見逃せないと思われました。

長野県飯田市まちづくりカンパニー「まちづくりについて」昭和22年の大火で、全焼戸数4,010戸という消失の中、町をどのような合理的権利関係の調整、商業地、生活地としてのポテンシャルの向上といった面に工夫をこらして取り組みを行っておられたが、北栄町にすぐに役立つというより参考になったとしか思われませんでした。